

感染症情報 11月18日～24日

府下小児科197医療機関(堺市19)から

①感染性胃腸炎	1081例(堺市	66例)
②溶連菌感染症	493例(堺市	61例)
③伝染性紅斑	119例(堺市	9例)
④RSウイルス感染症	116例(堺市	5例)
⑤手足口病	94例(堺市	7例)

府下インフルエンザ定点301医療機関(堺市29)から

インフルエンザ 363例(堺市 59例)

感染症報告数は前週比0.3%増の2,197件であった。

報告数の第1位は感染性胃腸炎で、以下、溶連菌感染症、伝染性紅斑、RSウイルス感染症、手足口病の順であった。

感染性胃腸炎は府下で前週と比較して5%増、堺市で18%増であった。溶連菌感染症は府下で前週と比較して1%減、堺市で81例→61例は25%減、堺市の定点当たり3.21であった。伝染性紅斑は府下で3%増、堺市で15例→9例であった。RSウイルス感染症が府下で24%減、堺市は前週11例→今回5例であった。手足口病は府下で2%減、堺市で前週と今回は同数であった。

インフルエンザが府下で前週254例→今回363例は43%増で、定点当たり0.84→1.21である。先週の報告で堺市は既に流行開始の目安の1を超えていたが、大阪府でも今回流行期入りした。堺市では前週35例→今回59例の69%増で、堺市の定点当たりは2.03である。

麻疹や風疹の報告はなかった。